

研究主題

(第2年次)

次代を担う子供たちへ

～学びの価値に気づき、自己を拓く～

I 研究の経過について

1 研究主題と目指す子供像について

- 次代を担う子供たちへのメッセージとして
- 教育の目的は「一人一人の人格の形成であり、国家・社会の形成者の育成」である。これは、いつの時代にも変わることはない。しかし、社会や子供たちの現状と課題は時代とともに変化しており、それを見据えた教育の在り方を考えることが重要である。

本校では、今、目の前の子供たちのよさや課題を見極め、教師の思いをメッセージとして授業の中で子供たちに伝えていこうと考え、昨年度から研究主題を「次代を担う子供たちへ」とした。第1年次の研究を始めるにあたり、まず、子供たちの現状と課題の分析から、子供たちがこれからの人生を生きていく上で大切にしたいこと（生き方の基盤となるもの）を以下のように考え、小学校段階で目指す子供像を設定した。

<生き方の基盤となるもの>

- 自分の力を生かしながら、共に生きる (集団の中で)
- 自分を大切にし、自信と誇りを持ってたくましく生きる (個人として)

<目指す子供像>

- ア 自分の力を精一杯発揮しながら、他を思いやり共に学ぶことに喜びを感じる子供
- イ よりよい自分をつくろうとし、自分自身を輝かせようとする子供

2 研究の仮説及び第1年次の研究の概要

- 研究の仮説
- 研究の第1年次である昨年度、前述のような「次代を担う子供たち」の目指す子供像に迫るために次の3つの仮説を設定した。

仮説1 今持っている力を十分に出し、互いに学び合ったことの価値を子供たちが納得できたり実感できたりする授業の実践を重ねれば、上記の子供像に近づくであろう。
(子供像 ア を受けて)

仮説2 子供一人一人が、自ら学び自ら考えたり、学びの成果や自己の成長を実感したりし、さらに学びの価値を広げることができる授業を実践していけば、上記の子供像に近づくであろう。
(子供像 イ を受けて)

仮説 3 共に学び合ったり主体的に学んだりするという視点や、各教科・領域の学習における不易と今日的課題という視点から単元や題材を改善・開発し、子供と共に創る授業を実践していけば、上記の子供像に近づくであろう。

**第 1 年次の
成果と課題**

第 1 年次の研究は、設定した 3 つの仮説のうち仮説 1 と仮説 3 に焦点を当て、研究副主題を「互いに高め合い響き合う授業の構想」とした。子供が自分の考えをしっかりと持ち、互いの考えや思いをしっかりと聴き合う「互いに響き合い高め合う」授業を展開することで、目指す子供像 ア に迫ろうと考えたのである。

研究のねらい	成果 (○) 及び 課題 (●)
(1) 一人一人が他を意識し共に学ぶことで、学びの成果を共有し自己の成長を感じられる授業の構想	<p>○ 共に学ぶことの意味を感じられる授業の在り方を、各教科等で追究し提案することができたこと。</p> <p>○ 「話す」だけでなく「友達の意見を聴く」ことから「友達の考えから新たな気づきを得る学習活動」を意図的に仕組んだことで、友達の意見を「聴こう」とする意識が芽生えたこと。</p> <p>● 学びの成果を共有し、共に伸びようとする学習集団の形成と、謙虚で豊かな心の醸成を図る工夫をさらに追究し、継続していくこと。</p> <p>● 子供が自己の成長を感じ、さらに自信を深められる指導と評価の工夫をすること。</p>
(2) 「共に学ぶ・自ら学ぶ」価値を明確にした、単元、題材の改善及び開発	<p>○ 主体的な学びには、共に学ぶ価値を感じられる単元構成や題材の工夫が重要であること。</p> <p>○ 互いの学びを伝え合い、共有できる場を単元や題材の中で意図的に設定していくことが、学びを実感することに効果的であること。</p> <p>● それぞれの単元や題材で育てたい力（子供ががんばっていくこと）を明確にすることなどを通して、子供が学ぶ楽しさや必要感を持つことができる工夫を継続していくこと。</p> <p>● 友達の考えと自分の考えをつなげ、新たな自分の考えとして再構築して表現する活動をさらに工夫していくこと。</p>

コラム 1 「次代を担う子供たちへ」と新学習指導要領

「教育の目的は一人一人の人格の完成であり・・・今回の改善にあたっては、まず、社会の変化や子供たちの現状を見据え・・・いかに教育の普遍的な目的の実現を図るかとの観点から検討を行った。」
(中央教育審議会答申より)

「次代を担う子供たちへ」の研究は、「子供たちが大人になったとき、誰もが大切にしたいこと（生き方の基盤となるもの）」を想定し、そこから目指す子供像を設定した。つまり、人間形成を大切にしたい研究である。子供たちの現状と課題から、今、子供たちに伝えるべきことも、教育の普遍的な目的の実現を図るためであることは、常に念頭に置きたいことと考えている。

Ⅱ 今年度の研究の概要

1 研究副主題の設定及び研究のねらい

「学びの価値に気付き、自己を拓く」

研究副主題

昨年度の研究の成果と課題をもとにして、今年度は研究の仮説2と仮説3に焦点を当て、研究副主題を「学びの価値に気付き、自己を拓く」とした。学ぶことの楽しさや意義、そして自分自身をより伸ばしていこうとすることの大切さを、子供たちへのメッセージとして伝えていこうと考えたのである。なお、「学びの価値に気付き、自己を拓く」具体の姿は、次のようにとらえることとした。

学びの楽しさや学ぶ喜び、学ぶ意義を感じながら、今の自分をより高めようとしたり、自分のよさや可能性をこれからの学習や生活に積極的に生かしていこうとしたりする姿

本年度の研究 のねらい

昨年度の研究である「互いに高め合い響き合う授業」では、集団としての学びの在り方を研究することを通して、共に学ぶことのよさや意義を子供たちと共有した。今年度は、それを継続すると共に、個人としての学びのよさや意義を感じられる授業の在り方や、よりよい自分を創っていこうとする子供を育てるための手立てを追究する。個の学びの確立と充実が、さらに集団としての学びを高め、目指す子供像に迫れると考えたからである。そこで、研究を進めるにあたって次の2つを研究のねらいとし、それぞれの方向性を明確にした上で研究内容を提案していくことにする。

- (1) 子供が考えを深め、自ら学ぶことのよさを実感するための方策を明らかにする
- (2) 自分のよさや可能性を伸ばす子供を育てるための方策を明らかにする

コラム2 「次代を担う子供たちへ」と新学習指導要領

これからの「知識基盤社会」では「課題を見い出し、解決するための思考力・判断力・表現力等」「生涯にわたって学ぶこと」「他者や社会、自然や環境と共に生きること」が求められていることから、・・・生きる力を育むことはますます重要になってくる。

(中央教育審議会答申より)

昨年度の研究では、集団としての学びの在り方や共に学ぶことのよさを追究した。今年度は、さらに個人としての学びの充実も視野に入れている。自ら学ぶことのよさを実感し、自分自身を伸ばそうとする子供を育てること、すなわち、「生涯にわたって学ぶ」子供を育てることを目指している。

2 今年度の研究の内容

(1) 子供が考えを深め、自ら学ぶことのよさを実感するために

考えを深める 子供が考えを深め、自ら学ぶことのよさを実感することは、生涯にわたって学び続けていくための原動力となり、今求められている「生きる力」の育成や本研究で目指す「生き方の基盤となるもの」にもつながることである。

自ら学ぶことのよさとは 子供が自らの考えを深めるとは、学びの対象について多面的に考えたり新たな見方や考え方に気付いたりすることである。また、自ら学ぶことのよさとは、知識や技能の習得だけでなく、それらを活用する力や思考力・判断力・表現力が身に付くこと、学ぶ対象への興味や見方・考え方が広がっていくことなどである。そこで、各教科等において、これらのことが実感されるための工夫を提案する。

ア 子供が進んで学び考えを深めるための教材・展開・場の工夫

学ぶ意欲 子供が進んで学ぼうとしたり考えようとしたりするには、学ぶことへの意欲が高まる教材との出会いや、達成感を味わう経験の積み重ねが必要である。また、見方・考え方 子供が自らの考えをより深めていくためには、学習過程のいろいろな場面で、見方を広げること 広げる工夫や場の設定が必要である。そこで、次の2つの方策を考えながら、具体的な授業を実践する。

【学ぶ意欲や達成感につながる教材の開発・改善、及び学習展開の工夫】

- 各教科等の学びのよさを生かし、それを教材づくりや学習展開に生かす。
- 個人としての学びと集団としての学びを実感できるように、個人の学習と全体や小グループの学習を繰り返し単元展開の中に位置付ける。
- 知的好奇心を刺激する課題、時間をかけてじっくり追究するような課題、様々な知識・事実・情報を関連付けないと解決できないような課題を意図的に設定する。

【「課題をとらえる」「予想する・推論する」「考察する」場での工夫】

- 子供の興味・関心や身の回りから課題を設定したり、課題について互いに語り合う活動を設定したりして、自分の課題としてとらえられるようにする。
- 予想や推論したことを検証するための学習活動を設定し、考える観点等を提示することで、子供の思考を意識してつなげていく。
- 学び合いの必然性を生み出すための支援や、考え方の深まりの過程を子供が自覚したり振り返ったりするための支援を行う。

イ 子供が、自ら学ぶことのよさを実感するための活動の工夫

表現し合う活動 子供が授業の中で自ら学ぶことのよさを実感する顕著な場面として、個性を生かして思いを表現したり、新しい考えや知識に出会ったりする場面が考えられる。そして、自ら学ぶことのよさは、表現したものを互いに交流し合い、納得したり、高めたり、認められたりすることで、さらに実感されていく。そこで、このような活動を充実させるため、次の2つの方策を考えながら具体的な授業を実践する。

【学習の過程や成果を自分の言葉や身体で表現し合う活動】

- 子供が自分らしさを発揮して表現する活動ができる場を設定して、互いに学習の過程や成果を交流し合う活動を行う。
- 実験したことや体験したこと、調べたことを自分の言葉で話したり書いたりして、互いの学びを共有する活動を取り入れる。
- 学びの中で持った自分の思いを表出し、友達と互いのよさを見つけ合う活動や自分の学びをまとめていく活動を行う。

【学び合いの場における問いかけ合う活動】

- 学び合いの場において、「～だと思うけど、どう?」「どうして?」「なぜそう考えたの?」などの問いかけの言葉などを使い、活動の過程や成果を納得するまで問いかけ合う活動をする。
- 自分の考えを見直したり、思いを共有したり、技能を高めたりするために、考えや思いを語り合う活動をする。

(2) 自分のよさや可能性を伸ばす子供を育てるために

自分を知る	子供がありのままの自分を知り、受け入れ、自分のよさや可能性を生かすこと
自分を生かす	とで、自信を持って自分自身を伸ばしていこうとする子供が育つと考えた。自分
自分を伸ばす	分のよさや可能性を伸ばそうとする子供を育てるには、「自分を知る」「自分を生かす」「自分を伸ばす」というそれぞれの視点から、授業や支援、評価の在り方を考えることが大切である。それらの工夫を各教科等で提案する。

ア 子供が自分を知り、自分を生かすための工夫

学び合いの工夫・改善	自分を知り生かす子供を育てるには、子供の健全な自尊感情や自己有用感、広い視野で考える謙虚な態度や心を育てること、そして、学んだことが様々な
学びの活用	場面で活用できるという自信を持たせることが大切である。したがって、自分や友達のよさに気づき、認め合う学び合いや、学んだことを様々な場面で活用する体験を重ねることが必要であると考えた。そこで、次の2つの方策を考えながら具体的な実践をする。

【自分や友達のよさに気付く学び合いの設定】

- 友達とかかわったことで生まれたり発展したりした考えを、自分の中で分かりやすく整理し、意味付ける活動ができる学び合いを設定する。
- 導入でのありのままの自分、目指したいよりよい自分など、自己を見つめる目を養うことにつながる学び合いを設定する。
- 美しいものを心から感受し、友達の気持ちに気付いたり、友達の考えを推し量ったりする体験的な学び合いを設定する。

【学んだことを活用する場の設定】

- 学んだことや身に付けたことを使うことのよさが実感できる活動を実践する。
- 学んだことが次の学びや生活に役立ったことを確かめ合う活動を実践する。
- 経験と知識を結び付ける体験活動を実践する。
- 学んだことの活用の仕方そのものを指導し、応用したり適用したりする活動を実践する。
- 学んだことと生活の結び付きを振り返る活動を実践する。

イ 子供が自信を持ち、自分をより伸ばそうとするための工夫

- 自分を肯定的にとらえる 自分に自信を持ち、自分をより伸ばしていこうとする子供を育てるには、自分を客観的、肯定的にとらえる工夫や、子供が次の学びへの意欲が持てる手立てを工夫する必要があると考えた。そこで、自己評価や相互評価の在り方や支援の方法を改善し実践する。
- 次の学びへの意欲を持つ

【達成感や満足感を持つための手立て】

- 子供が自信を深めていけるよう、学びの過程や成果に対する満足感、及び思考の深まりが感じられる振り返りを実践する。
- 自分のよさや足りないところを自分で認め伸ばしていく場と相互評価による互いのよさを認め合う場をバランスよく単元の中に設定していく。

【さらなる成長に向けての展望を持つための手立て】

- 新たな学びや自己の可能性に関心が向くような学習の工夫をする。
- 発展的な学習内容や考え方に触れ、新たな学びへの意欲が継続していくような投げかけをしていく。
- 自分では気付かない潜在的なよさや可能性を、友達との相互評価や教師の見取りや声かけなどの工夫で気付かせたり伸ばしたりしていく。

コラム3 「次代を担う子供たちへ」と新学習指導要領

<中央教育審議会答申に見られる子供たちの現状>

- ① 思考力、判断力、表現力を問う読解力や記述式問題に課題がある。
- ② 学習意欲、学習習慣、生活習慣に課題がある。
- ③ 知識、技能を活用する問題に課題がある。
- ④ 自分への自信の欠如、将来への不安、体力の低下などに課題がある。

本校の児童にも同様の傾向が見受けられる。①②の課題については、本校研究内容の「子供が考えを深め、自ら学ぶことのよさを実感する」に関連し、③④の課題については、研究内容「自分のよさや可能性を伸ばす子供を育てる」に関連している。今後もこれらの課題の改善に向け、各教科等において具体的に提案していきたいと考えている。